大衆消費時代、老人の生き方は？
高令者大学で修了式

去る三月十七日公民館において、昭和五十四年度高令者大学修了式を開催しました。

午前中は三月の講座で、下越教育事務所、長瀬社会教育課長から「これからの高令者の生き方」という演題で講演を聞きました。

講演の概要は「村にも都市化がおしよせ、つつましくやる時代がなくなり、おもしろくおかしく暮す大衆消費時代になった。こういう時代に高令者はどう生きていけばよいのか」それは、

①現在の社会の中に適応する生き方、若い人の考え方をよく聞いて判断していく。

②年はとっても思考力、創造力、判断力は変らない。頭をつかうことによってそれがさえていく。人間の細胞は百五〇才までになってもなくならないと言われている。

③今迄学んだ知恵、技術を社会のために生かしてほしい

④生きがいを求めていく、趣味やボランティア活動をやってほしい。

⑤村の文化遺産を伝えていってほしい。

講演終了後、九十六人の高令者に公民館長から修了証書が手渡された。

その後修了を祝って祝賀会を開いた。村長、議長、教育委員長もかけつけ祝辞を述べてくれた。

健康を祝して乾杯

公民館結婚式
考えよう、豪華より個性的な式を
——『披露宴』は会費制で簡素に——

公民館では明るい村づくりと生活改善をめざして「公営結婚式」をはじめて今年で十九年余の歳月が流れました。

この間、公民館運営審議委員の方や、他にいろ〳〵の人の意見を聞きながら、時代の流れにとり残されないように改善と多少の工夫を加え今日までいたりました。

しかしながら最近はやゝもすると華美の方に目が奪われせっかく公民館で式を上げても公民館できめた金額を守らないで「公民館でやっても結構かかるてば？」というような人もいるように聞いています。又さきの村政懇談会の中でも公民館結婚についての意見がだされました。

そこでこれらをふまえ、今年の四月からは公営結婚の原点にもどるべく、定められた額、その他はきちっと守っていただくことにしました。引物等は直接見えないからといって高額なものを選ぶ等ということのないようにしていただきます。

これから定められた額を守れない方は使用をご遠慮いただくことになります。定められた金額等については次のようになっています。

料理	三、五〇〇円
引物	二、〇〇〇円
式菓子又はカゴ盛	二、〇〇〇円
酒、ジュース	五〇〇円
赤飯	三〇〇円
合計	八、三〇〇円

以上のほかに必要な経費は

案内状一部	七〇円
披露宴席順表五、〇〇〇円	
白布洗濯代	自費負担

このほか次のようなことについても定められています。

○新郎、新婦の式服は規制しませんが華美にならないようにしましょう。

○披露宴での花嫁のお色直しは原則としては一回とします。

○結婚式の会場つくり及びあとしまつは確実にやっていただきます。

第8回　村民将棋大会
A級は佐藤朝雄さんが二連覇

去る三月二十三日横越村公民館において第八回村民将棋大会を開催した。

三月という何かとせわしい時節であるため、参加者は少なかったが出席者はいずれも将棋な好きな人達ばかりで時間のたつのも忘れて熱戦を展開した。

今回、一般の部は四人ずつ三グループにわかれてリーグ戦をやり。上位二名はA級、他はB級とし、A級はトーナメントで勝敗をきめ、B級はきけんした人もいたので総あたり戦とした。

小学生は総あたり戦で勝敗を決めた。尚成績は次のとおり。（碁は参加者が少ないため中止した）

◎小学生の部

一位　金川　明　七勝一敗
二位　伊藤忠一郎　五勝三敗
二位　宇野　匠　五勝三敗
二位　渋谷　賢一　五勝三敗

◎一般の部　A級

一位　佐藤　朝雄　横越
二位　伝　富男　木津
三位　遠海　敏郎　桜橋工場

◎一般の部　B級

一位　山田仁之助　横越
二位　串田　基栄　藤山
三位　大森　芳則　木津

沢海地区
第2回　芸能まつり

沢海分館では去る三月二日昨年に続いて第二回芸能まつりを開催しました。体育館には地域の皆さんから多数ご来場いただき、司会は地元の名アナ、伊藤栄蔵氏にお願いし盛大に開催いたしました。

民謡クラブの皆さんからは一年の練習の成果を発表する唯一の機会であると喜ばれ、地域の皆さんからは非常に楽しい慰安の一日でもあり、又社交の場でもあると喜ばれております。

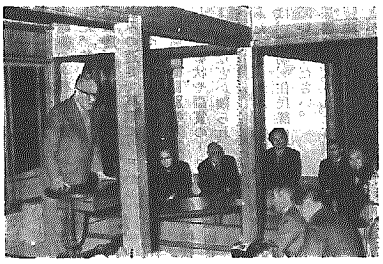
ところで昔の農家の主婦は朝早くから夜おそくまで働くことが美徳とされ、模範とされてきました。

しかし、現在では少しづつ変ってきました。もちろん働くことは大事ですが、忙しい中にも暇を見つけてそれ〴〵の趣味を楽しむ事も、毎日の生活に大切な事ではなかろうかと思います。それらの意味からサークル活動はただ書が上手になる、あるいは踊りが上手になる事だけがすべての目的でなく、楽しみながらそれらの活動を通じてお互に人を理解し、励ましあいお互に職業は異っても友達の輪を大きく広げ、心に明るさと豊かさを持つことが一番大切なことではないだろうかと考えます。

数々のプログラムの中、午後三時半、参加者全員による亀田甚句のフィナーレで又来年を約して閉幕いたしました。

◀秋田おばこ
（写真提供　小林長次郎氏）

日本民俗学の先駆者
「小林　存」伝出版祝賀会開かる


▶ありし日の存さんを語られる伊藤威夫さん

去る三月二十日（木）沢海北方博物館において「小林存伝田版記念祝賀会」（主催　小林存歌碑建立発起人会、建部、小林記念館設立推進準備会）が開催された。

存翁は日本民俗学の先駆者であり、かつまた民俗学の草分けでもあり、村の生んだ奇才とも言われています。

存翁の業績については今迄は一部の人にしか研究されていなかったようですが、村で昭和二十七年、存翁著の「横越村誌」が発行されて急速に研究の成果が見ておされるようになりました。

その後さらに存翁の歌碑が旧横小に昭和五十年に建設され、これが再び契機になってより一層存翁の研究に傾注する人が増えてきたようです。

そんなおり、川崎久一氏（元新潟日報三条支局長）がこのたび「小林存伝」を出版（野島出版）しました。そこでこの本の出版記念祝賀会を開催したのです。

祝賀会には来賓として県民俗学会々長の山口賢俊氏、元県史編纂室長、駒形氏の方々をはじめ二十数名おいでになりました。このほか村の有志約九十名位が集まり盛大に祝賀会が催されました。

著者の川崎氏は、謝辞の中で「私のこの本は盲人が象の足をなでて、これが象かと相像するくらいなごくわずかなもので、本としては欠陥書物ですが、これから存さんの研究をされる方の一助になれば幸せであります」と述べられた。

—尚、この「小林存伝」は役場総務課で取り扱っています。一冊三、八〇〇円です。

役場　電話　公二一一一番
〃　有三五四一番

横越村連合青年団
新役員体制決る

村連合青年団では、去る三月三十日、昭和五十四年度の総会を開催しました。

活動報告、決算報告等、一カ年の総括がされたあと、五十五年度の役員選挙が行われました。

昭和五十五年度役員は次のとおりです。

団長	林　総一（横越下）
副団長	坂井千代志（〃）
〃	阿部　春美（木津）
会計	小田　一栄（小彩）

また、中蒲原郡連合青年団も三月三十一日代議員会を開催し新役員を選出しました。その結果、本村から次の二人が選ばれました。

団長	中野　芳夫（前村連青団長）
事務局長	阿部　量子（横越下）

お詫び

三月号の四面の中で、大丸杯バスケットボール大会、女子優秀選手、山田涼子とあるのは山田裕子の誤りでした。お詫びし訂正いたします。

公民館の休館について

いままで公民館の休館日は日曜、祭日と定められていましたが、住民の利便を考え日曜、祭日でも開館していました。

しかし開館していて利用のない場合もありますので、昭和五十五年四月一日から利用のない場合は休館日とします。

したがって日曜、祭日、及び平日でも公民館を利用したい方は使用三日前までに届けて下さい。（電話でも結構です）

尚、夜間の休館日は毎月十日、二十日、三十日です。

郵便局からのおしらせ

身障者（一級、二級）で満六才以上の方お一人につき、青い鳥はがき二十枚差しあげます。ご希望の方は（代理人でもよい）手帳持参の上郵便局へ。くわしいことは役場又は局へおたずね下さい。

☎横越郵便局　二〇〇〇番
☎沢海郵便局　二〇二〇番

トップ写真の説明

このいちご栽培は今から四年位前にはじめた。栽培方法は、苗は自分で作りかなり成長させて山形へ持っていき、冷蔵庫に入れていわゆる苗を寝むらせた状態にしておく。

そして九月頃植えると十一月からクリスマスの時期迄収穫できる。収穫後すぐ別の苗を植えると二月頃から収穫できる。今は午後から収穫し夜に整理して、朝亀田の仲間（横越には仲間がいない）と出荷する。これから規模を増やすにしても石油の値上りで大変だし同じ場所では二〜三年位しか作られないので—。いちごを作るより米作りの方がよっぽどいいろもねえ—。

（木津、石井義信氏夫人の話）